

障がい児に気をとられて他の子どもに配慮が行き届かない！

加配の先生が障がい児と他の子どもの壁になっている！

はじめて障がい児を受け入れる担任と 加配担当先生のスキルアップ講座

講座趣旨：障がい児（発達障がい児を含む）に必要なのは、子ども自身の個別の発達支援ですが、集団保育の場では、しばしばお客さま扱いになりがちです。ほぼすべての保育園に障がい児が受け入れられている現在、**保育集団と個別の発達保障のあり方**を学ぶ必要があります。

現在、個別支援といえば病院での訓練、療育（リハビリ）センター、言語訓練に通う子どもが大半です。その理由は、障がい児、特に保育現場で頭を痛める発達障がい児等を、子ども自身の脳の欠損であり、育てられ方の問題と捉え、欠損や問題を矯正すれば「なおる」と考えているためです。しかし、障がい児の支援、特に言語、関係性、運動等は訓練よりも、遊びの場（保育）での支援が効果的です。

保育園現場で受け入れている、さまざまな障がい児の実例を通して、個別支援方法を講義する、極めて臨床的な障がい児保育講座です。

水曜 夜講座 全4回 (18:00~20:00) 定員：25名 1回5000円 選択可

第1回 7月15日(水)
「知的障がい児を保育集団に受け入れる」

第2回 8月19日(水)
「肢体不自由児（脳性まひ児）を保育集団に受け入れる」

第3回 9月9日(水)
「言葉おくれの子どもを保育集団に受け入れる」

第4回 10月14日(水)
「自閉症スペクトラム症児を保育集団に受け入れる」

講師：辻井 正
(NPO法人
国際臨床保育研究所所長)
辻井正は定時制高校、
養護施設、てんかん性



子どもの施設、幼児障がい児通園施設、
総合病院肢体不自由児病棟、そしておも
ちゃライブラリーと多様な臨床体験を
経ています。また、障がい児保育専門委員
としての20数年の実績から、障がい児
に必要な支援方法を保育の現場に沿って
話します。

各講座内容は裏面をごらんください

場所：NPO法人国際臨床保育研究所 (大阪市天王寺区上本町8-4-11 キムラビル5F)
☆コーヒーと茶菓子をご自由にお飲みください☆ お申し込みはFAXで(裏面)



講座シラバス (内容) 18:00~20:00

日 程	講 座 内 容
第1回 7/15 (水)	知的障がい児を保育集団に受け入れる ・「知的障がい児のIQ(知能)は変化しない」という学説が一般的でしたが、最近のコロンビア大学の研究から、脳のワーキングメモリーを使うことで、知的障がい児のIQが改善されたと報告されています。ワーキングメモリーとは何か?どのような遊びがワーキングメモリーを刺激するのか等の実技練習も行ないます。
第2回 8/19 (水)	肢体不自由児(脳性まひ児)を保育集団に受け入れる ・体が不自由な子どものタイプは、脳神経の疾患による脳性まひ児、先天的な四肢障がい児、何らかの理由で座れない、歩けない子どももいます。脳性まひ児は理学療法士等の指導もありますが、保育現場で通用しないこともあります。また、知的な問題や意欲の乏しさで歩かない子どももいます。脳性まひ児のケアと、一般に体が不自由といわれる子どもに適した保育方法を講義します。
第3回 9/9 (水)	言葉おくれの子どもを保育集団に受け入れる 「言葉おくれ」という障がい児名はありませんが、機能障害(耳が聞こえない)以外で、何らかの理由でしゃべらない子どもを「言葉おくれ」と呼んでいます。しかし、機能障害でない場合も、言葉の訓練に通う子どももいますが、本来は保育の場で聴覚刺激、ものと言葉の一致、発語を促すことが、しゃべるための支援です。言葉おくれ(機能障害でない)と呼ばれる子どもへの実践的な支援方を講義します。
第4回 10/14 (水)	自閉症スペクトラム症児を保育集団に受け入れる 自閉症児への理解や生活上の支援法の研究が進んで来ました。特に、自閉症の多くは、乳幼児期の早期の発達のリスクとの関連も指摘され、改めて、自閉症児と保育の関わりの重要性が指摘されています。 特に、保育現場に於ける視覚的な興味や刺激から、子どもが次の行動を予測するビジュアル・エデュケーションの方法を講義します。

お申込みは 06-6773-3008 まで FAX をお送りください メール info@kiccc.or.jp

ふりがな
受講者名:

ご勤務先

ご連絡先: 〒

TEL:

FAX:

ご希望の講座に○をおつけください 7/15 8/19 9/9 10/14

▽お申し込みいただきました方には後日、当研究所までのアクセスマップをお送りいたします。

▽お支払いは研究所にてその都度お願いいたします。